

令和4年5月12日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立富山工業高等学校
校長 篠原俊一郎

令和4年度学校経営計画を別紙（様式2・3）とともに提出します。

令和4年度学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな教養と深い技術を身に付け、自ら学び、自ら考える力を備えた、心身ともに健康で社会の変化に対応できる人間性豊かな工業人を育成する。

2 学校の特色

(1) ものづくりの心を育む教育活動

本県における「ものづくりの中核校」として、創造的なものづくり活動や資格取得、各種コンテストなどに積極的に取り組むとともに、地域産業との連携などを通して、21世紀の産業界をリードするスペシャリストを育成している。

(2) 地域社会に根付いた学校教育

2学年全員が参加するインターンシップ体験や各学科の関連する企業への工場見学を推進する他、五福児童館祭りなど各種地域イベントへの参加や小学生ものづくり教室の指導など、地域社会との積極的な関わりを通してキャリア発達を促し、高い職業観、勤労観を身に付けた工業技術者を育成している。

(3) 活気あふれる特別活動

生徒会活動や学校行事、部活動などに積極的に取り組ませることで、自らの能力を十分に発揮させ、個性あふれる、協調性を備えた人物を育成している。

3 学校の現状と課題

〔現状〕

- ・ 学年8クラスの大規模校になって競争意識が強まり、互いに切磋琢磨しようとする雰囲気をもっている。
- ・ 各学科では、学習意欲の高揚や将来の職業選択に向け、検定の合格や資格取得を目指して熱心に取り組んでいる。
- ・ 大多数の生徒が部活動に加入しており、ロボットなどの「ものづくり」や文化活動、運動競技に積極的に取り組み、全国大会入賞など、大きな成果を上げている。
- ・ ここ数年、就職希望者の割合は7割で、そのほとんどが地元企業に勤務しており、離職率も低い。また、その他の生徒は、各自の専門性をさらに高めるため、国公立大学をはじめとする主に工業系の各種学校に進学するなど、自らの可能性を試そうと、在学中と異なる分野にチャレンジしている。

〔課題〕

- ・ 「県内産業界のニーズに対応する人材育成」を最重要課題と位置づけ、その実現に向けて、さらなる研究実践を進める必要がある。
- ・ 生徒には技術・技能ばかりでなく、人間関係形成力やコミュニケーション力、自主性や協調性が期待されている。
- ・ 日々進歩する工業技術の進化に対応し、現場で必要な力を身に付けさせるために、専門教科指導法の改善や、新教材の開発が求められている。
- ・ 異なる学習歴などにより生徒間の学力差が拡大しており、「学び直し」を行うなど、工業高校生として必要な基礎学力の定着を図る必要がある。
- ・ このためにも、研究体制の構築と教員の意識向上が必要である。各教科が独自で動くのではなく、学校全体で連携して動ける体制の構築が必須である。

(様式2)

4-1 学校教育計画(全日制)

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	○ 学力と学習意欲の向上を図る。 ○ 生徒の実態を踏まえ、系統的な学習内容や体験学習を重視しながら、生徒が主体的に取り組むことができるような授業形態や展開を工夫する。
		計画	○ 朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 ○ 教員研修を積極的に行い、ICT機器及びタブレット端末を効果的に活用した授業を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指す。 ○ 普通教科と工業科専門学科との連携を密に取り、指導内容、指導法の充実を図る。
2	学校生活 重点2	目標	○ 「誠実なコミュニケーションや身だしなみを実践し、社会的常識と場の状況をわきまえた行動ができる生徒」を育成する。
		計画	○ 全教職員が共通理解のもと、生徒指導についての考え方を確立し、教育のあらゆる場面を通して、その実現に向け取り組む。 ○ 地域や家庭、関係諸機関との連携を密にし、生徒の健全な生活と活動の確立に努める。 ○ 日常の挨拶や生活習慣を確立し、規範意識を高め自他を敬う意識の醸成を図る。 ○ 愛校心を育み、生徒が誇れる学校づくりを進める。
3	進路支援 重点3	目標	○ 社会での使命を自覚させ、生徒が自己の能力・適性を見つけ出し、その役割を果たすよう自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるように指導する。
		計画	○ 学年・各教科・各学科と連携し、全教職員が協力して指導にあたることによって、生徒一人一人が希望する進路実現を目指す。 ○ インターンシップや工場見学、応募前職場見学を通して企業について理解し、勤労意欲や社会人としてのマナー等を学ばせる。 ○ 進路希望調査、面談などにより生徒の実態を把握する。講師を招いて講話会を開くなどして、進路意識や職業観を養う手だてとする。 ○ 進路説明会や保護者懇談会などの機会を通して、本校の進路指導の現況を保護者に知っていただく。 ○ 小論文や自己PRの書き方指導、面接指導等を通して、将来必要となる知識やマナーを身に付けさせる。
4	特別活動 重点4	目標	○ 代議員会での意見を基に、生徒会が中心となった学校行事等における自主的で活発な活動を促す。 ○ 生徒会活動や部活動を通し、自主的自律的な生活態度を養うとともに、成就感や達成感を体験させる。

		計画	○ 生徒会とホームルームの連携を強め、アンケート調査をもとに学校行事の内容や実施方法について代議員会等で十分に検討し、生徒の参加意欲の向上や活性化を図る。 ○ 全員部活動加入を通して、生徒一人一人が成就感や達成感を味わえるよう個々に目を向けた活動を心掛ける。また、部の運営や部室の使用、活動場所の環境整備等については、自主的に改善されるよう啓発する。
	その他	目標	○ 学校行事について全体計画を立案し、円滑な学校運営を行う。 ○ 奨学金貸与や食堂の管理など、生徒の福利厚生を増進を図る。 ○ PTA、教育振興会、同窓会と連携し、本校の教育目標達成に寄与する。 ○ 日頃読書に親しむ機会の少ない生徒に、図書館の活用を指導するとともに、活字に触れる機会を増やす。併せて、教科指導における予習および復習の場の提供ならびに自主的学習活動の促進を図る。 ○ 生徒の情報活用力やプレゼンテーション力を高めるため、各種資格検のための学習環境や、情報関連機器の利用環境を整える。また、教員の校務事務の円滑化を推進する。 ○ 生徒に心身の健全な生活を送る必要性を認識させ、教職員が心身に不調を抱える生徒に対して共通理解を図り支援を行う。
		計画	○ 各分掌と連絡を密にし、円滑な学校行事の遂行に努める。 ○ 年間を通して、奨学金貸与などについて生徒を支援する。 ○ 保護者の研修や広報活動を積極的に展開し、生徒と保護者のコミュニケーションの機会を増やすとともに、家庭教育や生徒を取り巻く社会問題等について見直す機会を設ける。 ○ 教育振興会や同窓会と連携を密にし、本校への支援体制を確立する。 ○ 図書および視聴覚器材の充実と利用の促進を図る。 ○ 生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○ 読書習慣が身に付くように、ホームルームの年間指導計画に「読書会」を設ける。 ○ 書を用いた案内板やタペストリーなどの製作を通じて、活字に触れる機会を設ける。 ○ 各種資格検定の指導時間確保のため、学科や学年及び部活動と共通理解を図り調整を行う。 ○ 授業での情報室の利用や、課題研究発表会などでのプレゼンテーション力を養うための情報関連機器及び視聴覚機器の利用など、効果的な情報教育を積極的に支援する。 ○ 実習室や情報室、図書館などの生徒ゾーン、教員の校務事務のための校務ゾーンなどの校内ネットワークの充実と安定的な運用を図る。 ○ 教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係を育て、生徒が自らの力で悩みを解決できるよう助言し、心身共に健康な人間形成を確立できるように支援を行う。 ○ クラウドサービスを利用したネットワークシステムを構築させ、オンライン授業やテレビ会議等を推進させる。

(様式2)

4-2 学校教育計画(定時制)

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動 重点1	目標	○ 生徒個々の学力に応じた指導法を各教科間で連携しながら模索し、学習意欲を喚起する授業を展開することで、基礎学力の定着を図る。 ○ 工業の専門科目では、実技を中心とした授業を展開することで、ものづくりの精神に根付いた自己実現ができる生徒を育成する。 ○ 工業に関する基本技能の習得と基礎知識を理解させることで、課題解決力の育成を図り、自己達成感が実感できる学習活動を推進する。
		計画	○ 生徒個々の学力向上及び進路意識の向上を目的として、工業高校の特色を生かしながら、普通教科と専門教科の調和がとれた教育課程を編成する。 ○ 各種検定試験に合格できる力の養成を目指した個別指導や継続的な補習を計画する。 ○ 生徒個々の学力に応じた指導の工夫を図るとともに、落ち着いて授業に参加できる環境づくりに努める。 ○ 生徒自身が製作した作品や授業で学習した内容について発表する機会を設定し、主体的な学習活動を推進する。
2	学校生活 重点2	目標	○ 自主自律の精神の醸成に努め、基本的生活習慣を確立させる。 ○ 社会の規則や社会人として必要なマナーを遵守する態度を育成する。 ○ 健康と命の大切さを認識させ、自らの健康管理と事故防止に努める能力と態度を育成する。
		計画	○ スクールカウンセラーや保護者と緊密に連携し、職員全体で生徒の生活指導にあたる。 ○ 交通安全に関する行事や指導を定期的の実施し、交通マナー向上や交通規則遵守を図り、事故防止に努める。 ○ 健康診断や健康相談を通して、自らの身体状況を把握させる。 ○ 保健指導や食事指導を通して、適切な行動選択ができるよう促す。 ○ 「保健だより」や「給食だより」の発行を通して、健康で安全な生活や正しい食生活に対する意識の向上を図る。
3	進路支援	目標	○ 多くの生徒が「働きながら学ぶ」という定時制の実態を踏まえ、望ましい職業観や就労意識、主体的な職業の選択能力を高めるよう指導、支援する。
		計画	○ 進路に関する情報収集に努め、職業安定所など関係機関との連携を密にして、生徒に対する進路指導の充実を図る。 ○ 学級担任・進路指導担当者と保護者との連携を密にするとともに、面接指導等を充実させ、生徒個々に適した進路指導に努める。

4	特別活動	目標	○ 特別活動を通して日々の生活を有意義に過ごすための動機付けを行う。 ○ 日頃、読書に親しむ機会が少ない生徒に図書館の活用を促すとともに、職場で必要な自主的学習活動の促進を図る。
		計画	○ 生徒会（執行部・委員会・ホームルーム）の主体的な活動を促し、自主活動醸成の場とする。 ○ 特別活動の活性化を図り、部活動や生徒会行事に対して意欲的に参加する生徒の増加を目指す。 ○ 図書および視聴覚教材の充実と利用の促進を図る。 ○ 生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○ 読書の習慣が身に付くように、年間計画に読書会及び読書感想文コンクールを設ける。
5	その他	目標	○ 教育目標達成のため、定時制の特質や生徒の実態を踏まえて、全職員の共通理解のもと円滑な校務運営に努める。
		計画	○ 職員間の情報共有と共通理解を大切にし、個々の課題に対して主務を中心に全職員で対応する。 ○ 部、科、学年間の連携と調整を図り、効果的な校務運営をすすめる。

(様式 3)

5-1 今年度の重点課題（全日制）

令和4年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	学習指導の充実
重点課題	主体的に学習に取り組む意欲と学力の向上
現 状	○ 基礎学力の不足や学習内容への関心の低さ等から、学習意欲に乏しく、授業への参加に消極的な生徒が増えてきている。また、家庭学習においては、レポート等の課題は行っているが、予習復習などを行っていない生徒が多いことから、家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る必要がある。 ○ 1人1台タブレット端末の配備に伴い、生徒が興味・関心を持ち、主体的に取り組むことができるようICT機器の活用を推進していかなければならない。
達成目標	互見授業の実施回数
	年45回以上
方 策	○ 6月と11月に互見授業週間をそれぞれ1週間設ける。 ○ 互見授業を通して、学科・教科等でのデジタルコンテンツの情報を共有し、授業改善につなげる。 ○ タブレット端末の効果的な活用法を教員研修等で共有し、その利用を推進する。

令和4年度 富山工業高校アクションプラン -2-	
重点項目	生徒指導の充実
重点課題	生徒の主体性を高め規範意識の醸成を行う
現 状	○ 安全確認不十分による事故が減らない状況が続いている。 ○ 校内ルールを認識しているにもかかわらず、安易に携帯通信機器を使用し、指導を受ける生徒がいる。
達成目標	自転車事故件数、携帯通信機器の使用に関する指導数
	自転車事故：撲滅するため前年度比減を推進（前年度30件） 携帯通信機器使用に関する指導数：前年度比減を推進（前年度30件）
方 策	○ 生徒に主体的に事故原因やルールについて考えさせ、自分の安全やルールについての意識を高める。 ○ 富山工業高校生であることに誇りを持たせ、「富工ブランド」を育成することにより、所属する責任と規範意識の高揚を図る。 ○ 自転車事故を分析し、原因・対策を周知することで、生徒が危険予知を行う習慣を身に付けさせる。 ○ ICTリテラシーの醸成を図り、携帯通信機器に依存しない生活確立させる。 ○ 保護者や地域の方と協議する場で現状の問題点を共有し多方面からの指導を実践する。

令和４年度 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	進路指導の充実
重点課題	生徒の希望に応じた進路決定への取り組みを充実させる
現 状	○ 自らの進路選択に対して主体的に取り組むことが苦手であったり、自己肯定感が希薄な生徒が少なくない。一昨年より全学年でキャリアパスポートを導入し、進路指導の一助としている。課題達成のためには、生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒が主体的に進路選択をできるように段階に合わせて指導していくことが大切と考える。
達成目標	３学年における就職希望の達成度（一次推薦応募先の合格率）
	９５％
方 策	○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、求人数の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが希望する企業についての生きた情報を収集し、その上で応募先を決定させる。 ○ 進路面談室の利用しやすい環境を整え、受験報告書や企業に関する資料閲覧、就職相談等に対応する。 ○ 面接指導や応募書類作成等、全教職員の協力を得て、個に応じたきめ細かい指導を行う。

令和４年度 富山工業高校アクションプラン -4-	
重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化
現 状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進する。
達成目標	体育大会、球技大会において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 ※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。
	運営・企画に積極的な参加意識度 体育大会 ７５％ 学校行事に対する満足度 体育大会 ８５％
方 策	○ 体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。球技大会について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、かつ体育委員、関係部活動部員などが意欲的に企画・運営に参加し満足できることを目指す。

5-2 今年度の重点課題（定時制）

令和4年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	資格取得を活用した学習指導
現 状	定時制に入学する生徒の多くは、卒業後に本校で学んだ専門的な知識や技能を活かせる仕事に携わりたいと考えているが、工業の専門科目に対して受動的な学習態度になりがちである。そのため工業科の専門的な知識や技術を主体的に学ぶことができるように資格取得を活用し、基礎から応用までの技術について、目標を持たせて取り組ませているのが現状である。また、本校生徒は入学以前の学習のつまずきに起因すると思われる基礎学力不足が影響し、高校での学習内容を既習事項に関連付けて理解することに困難が生じる場面がある。そこで、本校では以前より学校設定教科「生活」で学び直しの意味も含め、漢字の読み書き、計算力、英語の語彙力の伸長と、社会生活における一般教養について生徒が学習する機会を設け、工業の専門科目を学ぶ上での下支えを行っているのがもう一つの現状である。
達成目標	全国工業高等学校長協会主催の検定や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合として65%以上【R3年度実績：82.4%、R2年度実績：60.0%】
方 策	・生徒との面談等を踏まえて学力に応じた受検資格を選定し、生徒本人に目標や受検までの学習計画を設定させ、主体的に学習に取り組めるようサポートする。 ・各種検定の内容と各学科の専門科目の内容を関連づけた指導を行うなど、生徒が継続的に目標に向かう中で達成感を実感できる指導法を模索する。 ・生徒の学習状況から補習計画を立案し、進捗に応じた見直しを図りながら遂行する。 ・学校設定教科「生活」を活用し、基礎学力を土台とした工業の専門的な知識や技能の学習機会を増やす。

令和4年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的生活習慣の確立
現 状	家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する意識が希薄になるときがあるが、授業の遅刻や早退は減少傾向にある。 最近では、自分の将来を考え、年間を通して無欠席で意欲的に学校生活を送る生徒が増えており、皆勤・精勤生徒の割合は50%を超える状況である。今後も基本的生活習慣を確立し、自主自律を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実に繋がると考える。
達成目標	年間の皆勤・精勤生徒の割合 57% 以上（14人中8人） 【R3年度実績：53%、R2年度実績：33%、R1年度実績：33%、30年度実績：46%】 ＊皆勤＝1カ年の欠席が0日 ＊精勤＝1カ年の欠席が3日以内 （皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する）
対 策	・日頃から生徒とのコミュニケーションを積極的にとり、生活実態の把握に努める。 ・授業の遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等を随時行う。 ・将来を見据えた進路指導を行うことで、基本的生活習慣の大切さを自覚させる。 ・健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ・スクールカウンセラーや保護者と緊密な連絡体制をとり、問題等の未然防止に努めるほか、問題等が発生したときは、状況に応じて早期に対策を施す。 ・年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。